

音楽科学習指導案

学習者 附属小学校2年3組 35名
指導者 加来 修子

題材名 リズムをかさねて楽しもう

1. 題材の目標

- (1) 曲想とリズムや音の重なり、拍などの音楽の構造との関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、器楽の技能を身に付ける。
- (2) リズム、音の重なり、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつ。
- (3) 拍子やリズムを意識して歌などに合わせてリズム伴奏をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組み、拍子やリズムに対する感覚を養う。

2. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想とリズムや音の重なり、拍などの音楽の構造との関わりについて気付いている。 ②思いに合った表現をするために必要な、範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能を身に付けて演奏している。 ③思いに合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や歌声、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。 ④楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。	①リズム、音の重なり、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。	①拍子やリズムを意識して歌などに合わせてリズム伴奏をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

3. 指導と評価の計画（10 時間）

	ねらい（◆）と主な学習活動（○）	評価規準〈評価方法〉 指導の改善に生かす評価「・」 総括資料とするための記録に残す評価「○」		
		知・技	思・判・表	主体
1	◆2拍子の拍のまとまりを感じ取りながら、リズム遊びをしたり歌ったりすることができる。 ○「2びょうしでリズムあそび②」を行い、2拍子の拍のまとまりを感じ取る。 ○「この空とぼう」の範奏を聴きながら、曲想を感じ取る。 ○リズム①をリズム唱しながらリズム打ちする。 ○リズム①とリズム②が4分音符と4分休符で出来ていることに気付く。 ○歌に合わせてリズム打ちをし、それぞれのリズムの面白さに気付く。	・①〈記録分析〉		・①〈記録分析〉
2	◆2拍子を感じ取りながら、歌の旋律に合ったリズムの組み合わせを工夫し、表現の仕方について思いをもつことができる。 ○「この空とぼう」を歌いながらリズム打ちをする。 ○モデル演奏 VTR を見て、イメージを持つ。 ○歌に合わせて、ペアで楽器（カスタネットとタンブリン）を使ってリズム演奏する。 ○グループごとにリズム①とリズム②の組み合わせを考えながら、歌と重ねて演奏する。（録音） ○グループごとに考えたリズムの組み合わせを演奏し、聴き合う。	○②〈行動分析・記録分析〉	・①〈発言分析・記録分析〉	○①〈記録分析〉
3	◆3拍子の拍のまとまりを感じ取りながら、曲想を感じ取ることができる。 ○「いるかはざんぶらこ」の範奏を聴きながら、曲想や言葉遊びの楽しさを感じ取る。 ○曲のイメージを話し合う。 ○3拍子を感じながら歌う。 ○リズム唱しながら手拍子でリズム打ちをする。	・②〈行動分析・記録分析〉		・①〈記録分析〉
4	◆3拍子を感じ取りながら、リズムを見て打楽器で演奏することができる。 ○「いるかはざんぶらこ」を歌いながら手拍子でリズム打ちをする。 ○いろいろな楽器でリズム打ちをする。 ○グループ内で上下段のリズムを分担し、手拍子でリズム打ちをする。 ○グループごとにどんな演奏にしたいか思いをもつ。 ○グループごとに打楽器を決めて演奏する。（録音）	○②〈行動分析・記録分析・録音分析〉	・①〈行動分析・録音分析・記録分析〉	・①〈記録分析〉

5 (本時)	◆イメージに合う楽器の組み合わせや演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するか思いをもつことができる。			
	○「いるかはざんぶらこ」を歌いながら手拍子でリズム打ちをする。 ○モデル動画を見て、曲のイメージに合うか話し合う。 ○グループごとに曲のイメージに合うように楽器の組み合わせを工夫する。 ○グループごとに考えた楽器の組み合わせで演奏し、聴き合う。(録画)	・③〈行動分析・録音分析〉	○①〈行動分析・録音分析・記録分析〉	・①〈記録分析〉
6	◆3拍子の拍にのって、歌とリズムを重ねて演奏することができる。			
	○「いるかはざんぶらこ」を歌いながら手拍子でリズム打ちをする。 ○グループごとに練習をする。 ○グループの発表を聴き合う。 ○学級全体で歌とリズムを重ねて演奏する。	○③〈行動分析・録音分析〉		○①〈記録分析〉
7	◆曲想と2拍子のリズムとの関わりを感じ取って歌うことができる。			
	○「この空とぼう」と「山のポルカ」を聴き比べる。 ○2拍子の拍を感じながら、「山のポルカ」を歌う。 ○8分音符と8分休符を学習し、リズム譜を見ながら、リズム唱する。 ○手拍子や足踏みなどでリズム打ちをする。	○①〈発言分析・記録分析〉		・①〈記録分析〉
8	◆楽譜を見て、リズム伴奏や旋律のリズムを演奏して、曲の特徴に気付き、鍵盤ハーモニカで分担奏することができる。			
	○「山のポルカ」を歌いながら、リズム伴奏をリズム打ちする。 ○旋律のリズムを手拍子で打ち、曲の特徴に気付く。 ○鍵盤ハーモニカ1・2を交互唱する。 ○鍵盤ハーモニカで分担奏する。	・④〈発言分析・記録分析・行動分析〉	・①〈行動分析・録音分析・記録分析〉	・①〈記録分析〉
9	◆曲想に合う楽器の組み合わせ方を工夫し、どのように演奏するか思いをもつことができる。			
	○「山のポルカ」を歌いながら、リズム伴奏をリズム打ちする。 ○選んだ楽器の組み合わせでリズムを演奏する。 ○踊っている感じを出すための演奏の工夫を考える。 ○分担ごとに演奏を聴き合う。	○④〈発言分析・記録分析・行動分析〉	○①〈行動分析・録音分析・記録分析〉	・①〈記録分析〉
10	◆音色に気を付けながら、2拍子の拍にのって合奏することができる。			
	○「山のポルカ」を歌いながら、リズム伴奏をリズム打ちする。 ○分担ごとに練習をする。 ○互いの音を聴き合いながら、鍵盤ハーモニカと打楽器を合わせて演奏する。	○④〈発言分析・記録分析・行動分析〉		○①〈記録分析〉

本時のねらい	ダループペア の演奏について、教師のモデル動画を見て話し合ったり、楽器の組み合わせや叩き方を試したりすることを通して、イメージに合った表現にするために思いを持ち、工夫することができる。
評価規準	ダループペア の演奏について、イメージに合った表現にするために思いを持ち、工夫することができる。
具体的な児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見たら、思ったより元気なイメージになっていないな。もっと音を大きくしてみよう。 ・ジャンプする1拍目を強く打って、残りは弱くうってみようかな。 ・元気にジャンプする感じにしたいから、どの楽器があうかな。試してみよう。 ・たくさんのイルカが泳いでいる感じにしたいから、楽器の数を増やしたいな。

時間	児童の活動	指導○及び留意点・◎評価(方法)※支援を要する児童への手立て	準備物
4分	1. 前時を想起し、めあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○「いるかはざんぶらこ」を歌いながら手拍子でリズム打ちをする。 ○前時に決めたダループペアごとのイメージ場面の図と文章を確認する。 ・前時の振り返りから、めあてを位置付ける。 	掲示物(楽譜・リズム譜)、iPad、TV
めあて もっとイメージに合うようにくふうしよう			
10分 15分	2. どんな工夫ができるか考えを出し合う。  	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル動画を見て、曲への思いに合うか話し合う。 ・楽器の演奏の仕方に注目させて話し合わせる。 ・「思いにあっていない」「なんかちがう」のような意見が出てきたら、課題を位置付ける。 ◎課題 どことなくふうすればよいかな。 ・グループで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【想定される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>もっとジャンプした音にしたいから</u>、音の大きい楽器を変える。 ・<u>ジャンプしてない時は弱くたたいて、ジャンプの時とメリハリを出す。</u> ・<u>元気にジャンプするイメージにしたいから</u>、強くたたいてみる。 ・楽器の組み合わせをためす。 ・たくさん泳いでるイメージにしたいから、楽器を増やす。 ・元気なイメージだから、強くたたく。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○出てきた意見を取り入れて、児童に演奏してもらい、「思いに合うようになったか」確認する。 ・思いに合わせて、工夫するとイメージに合うようになってきたことを確認する。 ・自分達も工夫したいという思いが持てるように 	iPad

20 15 分	<p>3. 楽器の組み合わせや演奏の仕方を試す。</p> 	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2活で出た意見を写真に撮り、ロイロノートで共有する。 <p>○グループペアごとに曲のイメージに合うように楽器の組み合わせを考えて、試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループペアの演奏を1度は録画し、自分達で確認するよう声をかける。 ・8つのグループに分かれて、工夫する。4グループに分け、教室とランチルームで活動させる。 ・前時の自分達の演奏を見ることから始める。 ・どんな工夫をしたいか話したり、楽器の演奏の仕方を試したりするように声をかける。 ・工夫や思いをメモする時は、ロイロノートを使うように声をかける。 <p>◎思・判・表①〈行動分析・録画分析・記録分析〉</p> <p>※途中で、今の状況を確認し、どんな工夫をしているか、部屋ごとに紹介したりして、困っているグループペアが参考にできるようにする。</p>	iPad、楽器（カスタネット、タンバリン、すず、トライアングル、ウッドブロック）
6分	<p>4. グループペア同士で演奏を聴きあう。</p> 	<p>○iPadの伴奏を流しながら演奏し、グループペアが歌いながら演奏を聴き、感想を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のペアに自分たちのペアのイメージ図と文章を発表してから演奏をさせる。 ・演奏を聴いた後に前回よりイメージに合うようになったか、どんな工夫がよかったか相手のグループに伝えるよう声をかける。 <p>○教室に戻ってきて、工夫やイメージに合うように変わったかを全体で確認する。</p>	
<p>まとめ 楽器の組み合わせや楽器のたたき方を工夫する。</p>			
5分	<p>5. 振り返りをする。</p>	<p>○どんな思いでどんな工夫をしたかやグループペアで聴き合った時に思ったこと等、振り返りを書くように声をかける。</p>	振り返りカード

【情報活用能力の育成について】

- 全体でモデル動画を視聴し、イメージにもっと合う工夫を考えたことで、学習の見通しをつかみ、その後の活動を進んで行っていた。
- ロイロノートに伴奏音源やリズム譜が載ったシートに自分の工夫したいことを書き込ませた。ICT機器を活用したことで、児童が何度も試すことができていた。
- 授業中に自分の演奏を動画に撮り、振り返りに用いることで、イメージにあっているか前時の動画と比較することができていた。
- ▲ペア（グループ）でイメージを共有することが難しかった。ロイロノートの共有ノート等を用いて、言葉以外の図や絵、写真なども使って、同じイメージを共有するための情報を選ぶ力をつけさせたい。
- ▲楽器ごとの音やイメージを表した掲示をしたりロイロノートに渡したりしていたが、それに意識を持たせる時間を取れていなかった。自分たちの問題解決に使えると思えるように、前時までの情報を活用する良さに気付かせたい。